

神戸の風色

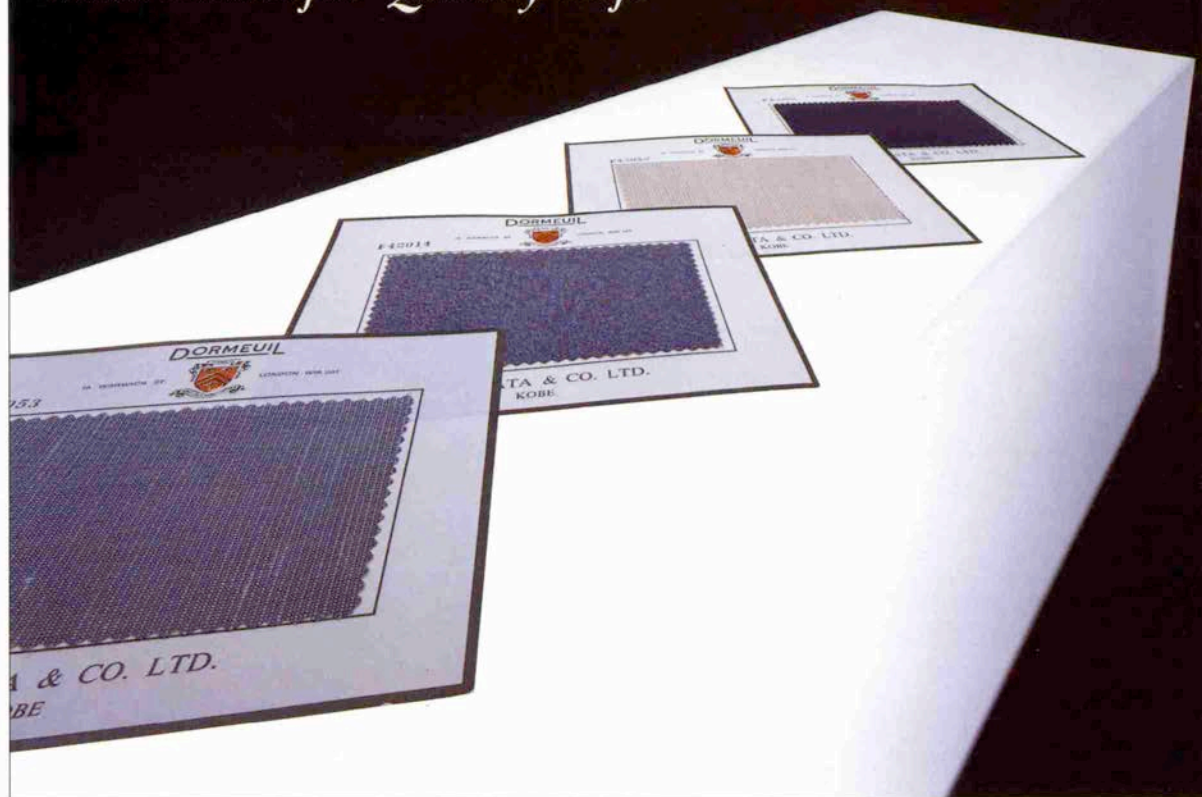
KOBE ● FUSHOKU

堀内初太郎 NO・4





Most Beautiful Quality Life



DORMEUILを始め夏服地が豊富に揃いました。

創業明治十六年 **金** 柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 TEL (078) 341-0693
大阪・高麗橋2丁目 TEL (06) 231-2106



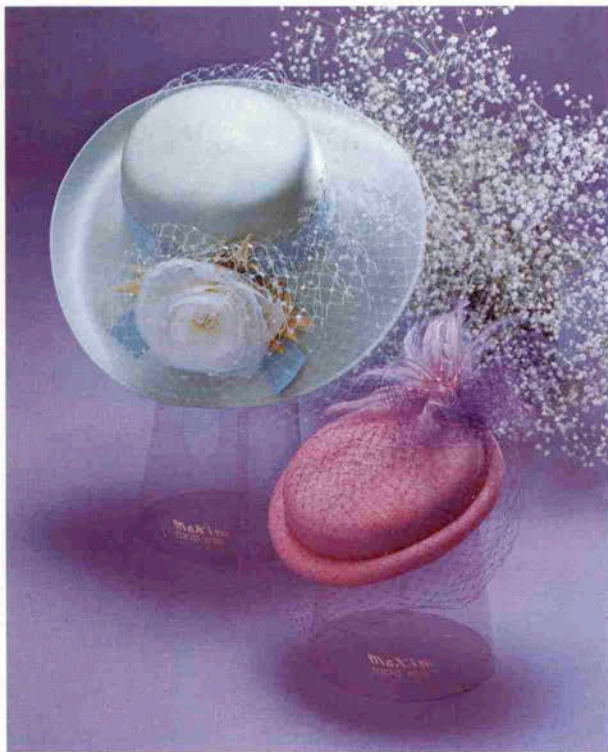
優しい春 ほのかに甘い春風にのせておとどける
オリジナルファッション。鮮やかな新緑の季節に
活動的なあなたを より生き生きと演出します。

婦人帽子

マキシ
maxim

神戸市生田区北長狭通2丁目8(トアロード) TEL.078-331-6711~3
東京店/ TEL.03-494-3129~30

'80 Spring-Early Summer Collection



初夏、夏物が入荷しました。

伝統を縫う 手づくりの風格



TAILORING FOR
CONNOISSEUR

Watanabe



洋服ノ粹

渡邊

神戸市葺合区磯上通8-1-32 グリーンビル ☎(078) 251-8501(代)
東京・大阪・神戸・姫路



Henri Aigner®



cassandre

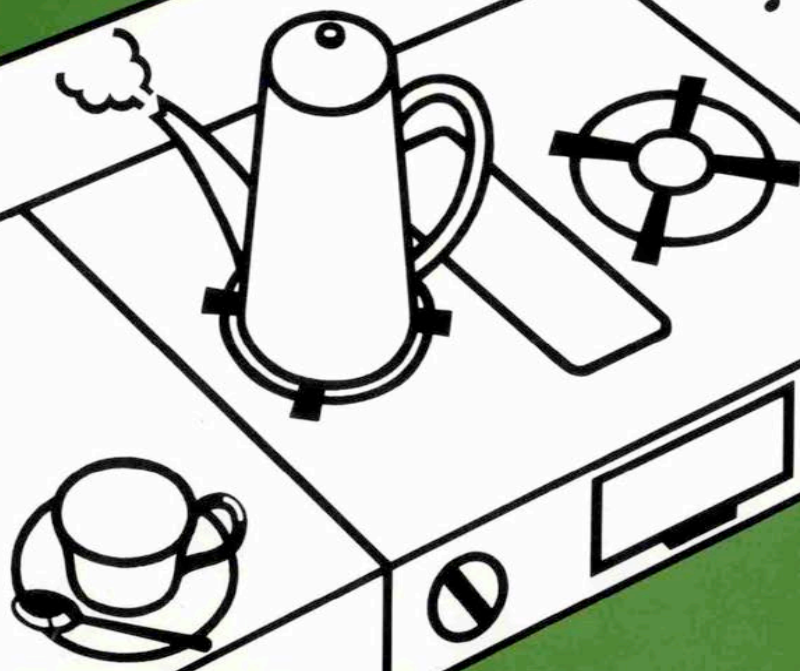
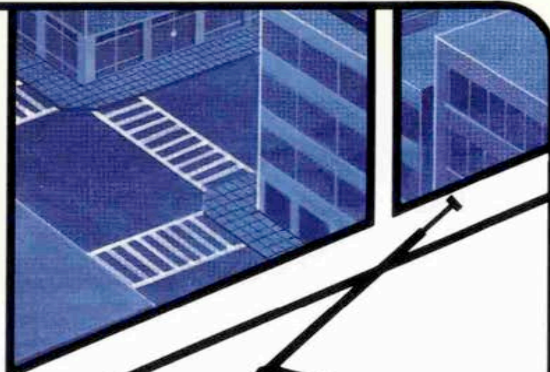
Kobe aoi 391-3985

神戸市生田区三宮町2丁目
センタープラザ西館113

FMから軽快な音楽。 ウキウキする自分が聞こえてくる。

ケトルがジュンジュン音をたてている。ミディアムテンポのカントリーソングが、朝をたたえている。陽気なリズムが、からだの隅に流れてくるのがわかる。こんな朝だ。なんともかみうまいきそうなきがするのよ。

●朝の快適なスタートが、きょう1日を決定づけることがあります。365日、さわやかな朝を迎えることができれば、素敵です。朝のようすがすがしい暮らし——新しい時代のメッセージにのせて、大丸がおとどけます。



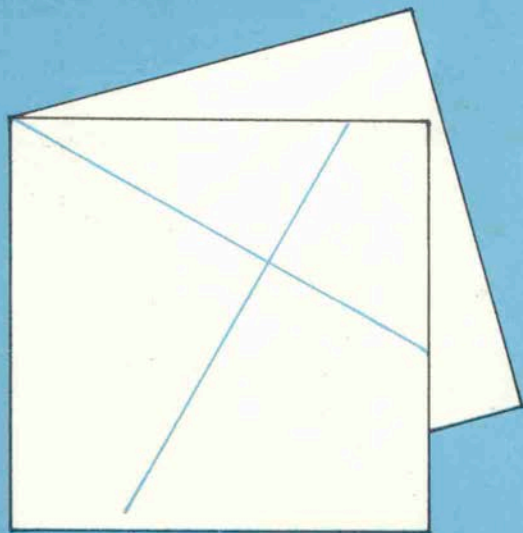
いい朝にしたい。
ステージ80



神戸もとまち
大丸

電話(078) 331-8121

Kazuo Kinoshita



これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

4月号目次 1980・No.228

表紙／小磯良平

セカンドカバー／僕の見た神戸(16)

- 9 神戸っ子(8)／浅野ゆう子／南 和好
- 13 ある集い／中内学校
- 15 コウベ・スナップ
- 16 画人・神戸(4)／鴨居 玲
- 18 神戸の風色(4)／堀内初太郎
- 29 私の意見／瀧川伸宏
- 31 随想／梅村光明／山内鈴子／榎忠／海野光子／市野木江充子
- 36 ある集いその足あと／有吉雄太郎
- 38 連載エッセイ・私のひろいもの(16)／竹中 郁
- 40 神戸歳時記(4)／北野浄水場の桜／文・三枝和子／絵・元永定正
- 43 地域文化論(8)／水谷頼介
- 44 キャンペーン・国際文化都市神戸を考える(30)
神戸をイキイキとした情緒ある町に
川上 勉／小林新二／中内 力／松宮隆男／渡辺干城
- 50 ポートアイランド情報
- 特集 神戸のオリジナル・ファッション (MADE IN KOBE)
- 54 ①ファッション・メーカー
座談会／木口 衛／木村 豊／稲岡必三
- 58 質のいい物を作ることがメイド・イン・コウベの条件
- 60 ②ファッション小売店
座談会／坂野通夫／松谷富士男／渡辺利武／大牧晴男／藤井節子
- 64 流行を越えた品質の良さに漂う神戸らしさ
- 66 ③洋菓子
座談会／光葉貞夫／河本 武／前田昌宏
- 70 全国的に群を抜く水準、生活に溶け込む洋菓子
- 72 ファッション・レポート／K・F・Mファッション・ショウ
- 76 KOBE FASHION SPOT
- 86 NEUE MODE MARCHEN (28)／篠原順子
- 102 アンド&神戸／田辺聖子
- 113 神戸の催し物ご案内(4月)
- 114 動物園飼育日記(173)／亀井一成
- 117 神戸の集いから
- 118 六甲山100コース⑤地獄谷西尾根／渡辺嘉雄
⑥ハチノス谷／今井拓雄
- 123 ノコちゃんの華麗なる食べある記(16)／小山乃里子
- 126 割烹吉本／ギリシアビレッジ
- 話題のひろば①ダイエー売上高一兆円達成
②高崎研一郎えびら賞受賞記念展
- 130 神戸を福祉の町に(76)／橋本 明
- 132 パントマイムジュニアⅡ・4／岡田 淳
- 136 私の映画手帖(28)／淀川長治
- 138 女体百景(93)／ヨガの女 細川 董
- 140 KFSニュース
- 143 ぴつといん
- 144 ポケットジャーナル
- 147 神戸百貨会だより
- 148 連載小説 溶ける闇(4) (第4回神戸文学賞受賞作品)
高木敏克 絵／木村光佑
- 154 連載小説 影と様む(4) (第4回神戸女流文学賞受賞作品)
田口佳子 絵／田中徳喜
- 159 トーク&トーク トラベルコーナー
- 160 編集後記
- 174 再びアルファベットアベニューの「K」／新井 満・石阪春生
- 176 海 船 港／クエート貨物船「アルマブク号」

●スギヤお店めぐり 独自のスギヤカラーを中心に
〈六甲店〉 コーディネイトの楽しさをお勧めしています。



「六甲界限のお客様は、ミセスでもお洒落センスのいい方が多く、私たちもとてもいい勉強になります。」

と語るのは六甲店店長の中村マサ子さん。
(左) お客様がどんなものをご希望なさっているかを常に把握し、コーディネートさせる。ベテラン店長である。流行にとらわれず、必ずシーズンの中で独自のスギヤカラーを中心に商品を展開して行くという六甲店の姿勢は、ハイセンスタウン六甲で、ひときわ光っているようだ。



LADIES' WEAR KOBÉ OSAKA TOKYO

SUGIYA

本店 神戸アロード 電話078(331)3436

名谷店 名谷須磨パティオ 電話078(792)6066

阪急神戸店 阪急百貨店神戸支店内 電話078(321)3521

六甲店 阪急六甲駅ファミリーストア内 電話078(871)2733

芦屋川店 阪急芦屋川駅ファミリーストア内 電話0797(31)8193

宝塚店 阪急宝塚南口駅ファミリーストア内 電話0797(73)1244

梅田阪急三番街・心斎橋バルコ・戒橋ホリティインスクウェア・西武大津店・池袋バルコ・西武宇津宮店

春がステレオでやって来た。

トータルコーディネートファッション

●リザ・サロン

アクセサリ内外雑貨

●ルイ・ミッシェル

COLLEGE SHOP

●CABIN

パリ・ナウファッション

●フランス・アンドルヴィ

パリ・ナウファッション

●ジョージ・レッシュ

東京銀座・婦人靴

●ダイアナ

舶来婦人靴専門店

●Pia

ヤングファッション&ブライダルサロン

●ルベール

ヤングアダルトファッション

●ランブ

ファッションバッグ・アクセサリ

●美呂

原宿・婦人服

●CAN

銀座・婦人服

●ゲルラン

婦人服飾

●東京屋

新宿・レディスファッション

●高野

おしゃれな靴の店

●BONフカヤ

コンテンポラリーファッション

●ザ・コレクション

宝飾・ビジュエリー

●ココ山岡

東京銀座・レディスファッション

●三愛

FASHION
PARK

神戸・三宮

さんプラザ・センタープラザ

3F

〈そごう〉が選んだ 陶芸の粋

題字 望月美佐

侘びにあらす。



荒川豊誠作「唐津茶碗」

4月の

画廊催しご案内

美術画廊(6階)

4月3日(木)～9日(木)

イタリア・ネローニア

国際児童図書展クランプリ受賞
米倉齊加年絵本原画展

4月11日(金)～15日(火)

特別企画

第6回現代洋画秀作展

4月18日(金)～23日(木)

美濃の新鋭

林 英仁 茶陶展

4月25日(金)～30日(木)

納 健 個 展

ヒマラヤ・スケッチの旅
アンナブルナとその周辺

●写真作品についてのお問い合わせは
美術画廊(6階)内線0426-6400
ご連絡下さいませ。



神戸三ノ宮
そごう
TEL 078-221-4101

☆私の意見

愛国少年の

夢

滝川 信宏

△NHK神戸放送局長▽



昭和初期、小学生だった私は、世界地図を見る度に赤く塗られた日本列島の小ささに幼い胸を痛めた。こんなに狭い国土で果たして世界の列強に伍していけるのか。山でも削って海を埋められないものかと愛国心に燃える少年は真剣に考えた。敗色濃くなった昭和十九年、勤労動員で琵琶湖の干拓作業に従事した。湖を干上げて農地にしようという計画は、私の願いに叶ったもので勝利の日を信じて、泥まみれの青春を送った。

昭和三十九年七月、当時の原口、宮崎の市政コンビは神戸市議会に人工島構想を説明した。「山、海へ行く」この壮大な構想は、当時、NHK神戸のニュースデスクをしていた私にとって、少年の日の夢が二重写しとなった胸の高鳴りを覚えた。

そしてまた十五年の歲月。今度は局長として再び神戸へ。暑い一日、甲子園の百二十倍という広大なポートアイランドに立った。四三七ヘクタールは、日本全土からみればほんの一点にすぎない。しかし狭い日本列島は確実に広くなっていた。白い夏雲の彼方に、狭い日本を嘆いた遠い日の思い出が甦った。

もう戦争はない。しかし土地は広く、人口は少ないにこしたことはない。折しも昨年暮、神戸市の人口は札幌市に抜かれ六大都市の栄光の座から転落した。都市の活力が失われていくとして「港町エレジー」と嘆く声も聞かれる。しかし大都市としての機能や風格は、札幌の比ではない。人多きが故に尊からず。人口増は諸悪の根源。新しい海の文化都市ポートアイランドで、二万人の市民が豊かに暮らす日も近い。

かつての愛国少年の夢を実現したこの人工の島で、一年後には「ポートピア81」が華やかに開幕する。住みよい街をめざして、六大都市の座を札幌に譲った神戸の「自然の英知」に拍手を送るとともに、ポートピアを起爆剤にしての二十一世紀への飛躍を祈りたい。いつの間にか「エレジー」は消えた。耳をすませば潮騒の間から「港町讃歌」が聞こえるようだ。

幸せが来るような
“おたやん”集めて7年目

ANAN
あんちっく
シリーズ
5



“おたやん”は、私と似ていて、何だか他人のような感じがしないのですよ。

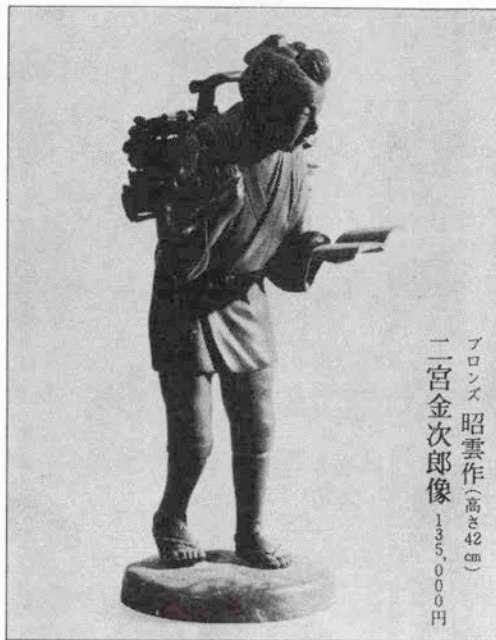
あんちっく AN AN
俺俺

神戸市生田区三宮町2丁目1番5号
センタープラザ西館3F306号
中尾 忠義 ☎392-3471

千葉和子
《千のママ》

庵々の中尾さんから
もこの掛袖、大鉢な
ど3点いただきました。
すてきでしょう。

刀剣 古美術



ブロンズ 昭雲作（高さ42cm）
二宮金次郎像 135,000円

毎月20日 無料鑑定
研磨、白サヤ、その他工作
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣 元町美術
古美術

神戸市生田区元町通 6丁目25番地

三越百貨店東へ150m 商店街山側

TEL 078-351-0081



梅村 光明
△詩人▽

生を 超える 詩を……

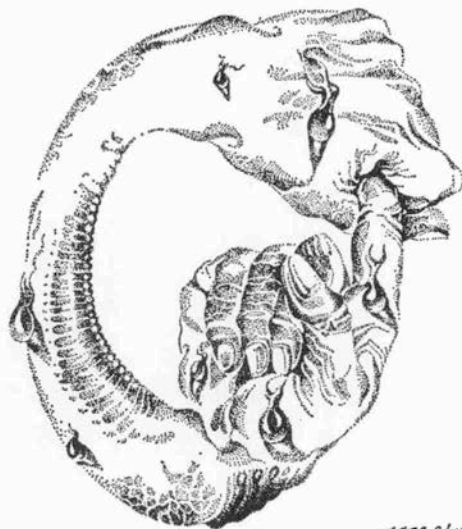
一昨年出版した私の詩集『破流智恵』にまとめられた作品の中には、それまでに私が経験した旅行から取材したものが幾つかある。私の詩には固有名詞が多く出てくる。それはひとつのグループとして、前橋、由良川、小豆島、丹後半島、龍野、嵯峨野などに見られる通り地名が多い。

旅行と言っても全て遊びの旅だが、見知らぬ土地へ行き、帰ってくるという繰り返し、その中へ記憶を辿っていく、詩を書くことに

よって、空間を旅し経過した時間を、紙の上に定着させることができる。それは日常と異なった時空間に於いて眼にした事や、体験した事柄を日常に内的対峙させることによって、日常を超えるイメージネーションを言語として形象化できるといふことである。紙上の戯れかも知れないが、白紙の状態に自分の言葉で、自己の世界を創造するといふ喜びを感じる。それは子供が遊戯をすることによって自己の世界を獲得し、拡げていくこ

随 想

第9回／ブルーメール賞を受賞して



1980, Chusnoki

カット／榎 忠

とに似ている。むしろその延長線上にあると言えるだろう。

私の詩には前述した旅行経験から書かれた詩の他に、過去の記憶や読書体験、決定的な歴史の時空間に触発されて書いたものがある。そこではスーポーやピカソ、ダリ、飯島耕一、生田春月、萩原朔太郎、それに久坂葉子などの人名が登場する。それらの人々の作品、あるいは内的世界の一端に触れることにより、その人達が生きた時代や状況への、いわばイマジネーション・トリップを行ない、自己を照応させることで存在確認ができた。

生田春月を想起したのは播磨灘を行く船上でだった。そして久坂葉子を感じたのは数年前の大晦日、最終電車が通過した後の阪急六甲駅の線路上だった。二人共それらの場所ですら命を断っている。(それは断言できないが)私はその場所では立ちつくさずに詩を書いた。

久坂葉子は十九歳の夏に上高地・乗鞍へ旅行をしているが、これも自殺した芥川龍之介は槍ヶ岳へ二十歳の時に登頂しており、それを記録した小文も残している。それぞれある時期に自然に親しんでいるのだが、自ら命を断つ瞬間には、内的世界と曾て遊んだ自然との間に、遙かな距離があったので

はないかと思っている。

「欺かれやすいものは感覚だが／その欺かれる哀しさにこそ／美は現れる」と知っているか／野に遊ぶのは幼な子たちか／白髪の老婆たちか　さまざま／苦しみのうちに時は過ぎるけれど／無聊の苦しみにまざる苦しみは無い／恙ない日々を願うあまりに／感覚の驚きを怖れてはならない／運命と遊び戯れて限りある生を終えよう」これは谷川俊太郎訳の前三世紀頃の「小アジアの古謡の一節だが、日本にも平安時代末期の今様歌謡集『梁塵秘抄』に「遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、遊ぶ子供の声きけば、我が身さへこそ動がるれ」という歌がある。両者は作られた時空間は異なっているが、それを超えた人間の普遍性が読みとられ、素晴しさを感じると共に、私も生きる時空間は限られているけれど、それを超えるような詩の一編を、今回のブルーメール賞を発条にして書いて行きたいと考えている。

ウィーンでの

小さな

出来事

山内 鈴子

△ピアノリスト▽



六甲山の移りゆく四季のもとで生れ育った私にとって、山脈の緑や白い土肌、海の青さなど、明るいカラフルな自然環境は郷土の誇りのひとつとしております。神戸市が全国にさががけて市民のために設置した花時計も、美しい自然の恵みを通じて和やかで暖い心のふれあいを創り出すことに大きな意義があったものと思われまふ。自然環境が人々の心のふれあいに作用する大きな力であることを、私どもはよく体験します。

一九七九年の夏、私は音楽研修に、何度か訪れたウィーンの町を歩いていました。長い歴史を生き続けた深緑と、数多の花々で彩られたヨハンシュトラウス公園は、訪れる都度、心の和む場となっています。

木陰から射すやわらかな陽光がその日の午後ヨハンシュトラウスの像の面を時間の経過と共にゆつくりと移動して行く……そんな静かな風景でした。数少い人影の中で、一人の端正な老紳士がベンチで長い間腰をかけてこの場所にとけ込んでいるかのようでした。やがて観光客らしい家族づれの

榎 忠

△造形作家V



から二人の子供が、ヨハンシュトラウスの白い石像の廻りで遊び始めました。突然その中の一人が、囲いの中の花にかこまれたその像の下から一氣に靴でよじ登り、小さな歓声を上げました。日本の公園で遊ぶ子供達の習性に馴れている私には、それ程不自然とも感じられなかった一瞬、それまで像のように佇んでいた老紳士が背筋を伸ばして立ち上ると、鋭い声音でただ一言、「下りなさい」と短かく子供をたしなめました。あたりの静寂の中に何となく気品を込めた低い声が響き、その声はまるでウィーン市民全員の気持を代表しているかのようにでした。

ウィーンに住む人々には当然の情景だったかも知れません。しかし、他国から訪れた私には、公共の花や像を大切にその気持は小さな感動の一瞬でした。

自然の中に、自然にふるまう人々、ためらわずにたしなめる心、直ちに反応してこれに従う心、これを目撃して感じる心。環境が人々の様々な心のふれ合いを創り出す大きな力であると考えさせられた、ある日の出来事でした。

新型編隊

について

桜の花が少し脹らみかけた頃、どうか、この辺の小学生の集団と毎朝同じ場所の同じ時間に会おう。九人で決った型での編隊である。その編隊がこの間から変わっているのだ。

前列にいた一番大きな男の子と最後列の女の子がいけない、かわりに前回より小さな可愛らしい子が加わっている。ときどき編隊が変形しているメンバーが新しく変わってまだ慣れてないのか新しい先頭の子はウロがきいている。高学年が車道側を歩き低学年を危険から守るため編成された事と思う。

毎日会っていた先頭の男の子と最後に歩いていった胸の少しふくらんだ女の子とはもう会えない、中学にいったんだなあと少し淋しい気持だが、今また新しい編隊をみていると気持が和む、先頭に來た男の子の心配をよそに、はじやぎまわっている新しいメンバーは少し危なかしい。

この編隊と一年間毎朝会うのだから一人でも欠けていると病氣かな

とかいろいろ心配させられる。私はこの編隊をくずさないようによけて通る。家を出て四十分ほど歩いているがこの編隊に遭遇すると元氣が出てくるのが不思議だ。私はこんなにきちっと編隊を組んだグループは他でみたことがない、もしバラバラだったら私は何も感じなかっただろう。まだ少し冷たいが楽しい春の風が今も通り過ぎていった。

この編隊に会った時、フウーと感じる快感と、組織化されたパターンを壊すことに快感をおぼえる私。最初は目新しいが単調な日々の連続だと、突然長い髪をふりみだしてこの新型編隊に飛びこむと子供達はどのように逃げるのか、想像すると笑いが込みあげてきてしかたがない。子供達を見守る気持と壊す楽しみの境目が自分でもときどきわからなくなる。

制作している時もあるべく目的と発表の有効性を発揮できる瞬間を煮つめられるだけ長く煮つめておくようにしているが、途中で発射してしまう。僕は本当に確たる信念をもって製作発表をしているのか、いつもやってしまった後で思う。腹立つなあ、そうだまだ若いから辛抱ができないのだ。でも我慢できなくて発射してしまう行動にはいつも変化が生れて来る。僕はひょっとしたら変化させてい

るものに熱中していく事に喜びを感じているのではないか、だから散発的ではあるが自分の持っている全部を発射してしまわないと気がすまない。たえず身体の中をカラッポにするのが底の方に何かが残っている、そんな自分のはがゆい。だがその残っている飢えが、またムズムズさせる。僕が歩く事によって、いつになるかわからないがムズムズが大きくなければなにかやっているだろう。

無限の

可能性と

エネルギー

海野 光子

〈カナディアンアカデミー
日本語日本文化部々長〉



何度やめようと思ったかわかりません。でもその苦しさを乗り越えると、また来年も、と思うのです。そしてとうとうことは十年目を迎えました。

「十周年記念公演」をすることの困難さに挫折そうになっていた矢先、「神戸っ子」から「ブルー

メル賞」授賞のお知らせを受けたのです。この十年間の苦勞が報われた思いがして、どんなに嬉しかったことでしょう。また続けてゆく勇気がわいてまいりました。本当にありがとうございます。

すでにご覧いただいた方はご承知と存じますが、「仮名手庵歌舞伎」は、単に外国人の「物まね」というのではなく、プロの歌舞伎にも負けない実力を持っていると言って下さる方もあるほどで、今や神戸名物の一つとなっております。『石の上にも三年』と申しますが、十年続けるということは並大抵の苦勞ではありませんでした。ではなぜそれほど苦勞してまで続けて来たかと申しますと、それは私に三つの基本的な考え方があったからです。

一つは、生徒達に、日本に滞在している間に、日本の文化、特に日本の伝統文化を身をもって学ぶことによって、日本人の心を理解してもらいたかったのです。人間の心を浅く皮相的にとらえるのではなく、もっと掘り下げてとらえることによって、古今東西変わらない人間の心を理解してもらいたいのです。生徒の一人は、プログラムのプロフィールの中で、「僕の何よりの願いは、歌舞伎を通して、日本人と外人が一つになって、僕たちは同じ人間なんだ、と

いう事に気づいてほしい事です」と言っておりますが、まさにそれが私の第一のねらいなのです。

次は、ともすれば日本人は、日本の伝統文化は日本人にしか理解できないものと思い込みがちです。けれども、本当にすぐれたものならば、「芸術に国境なし」と言われるように、広く世界の人々に理解されるものであると思います。ですから私は、外国人が高い水準の歌舞伎を演ずることによって、日本の伝統的な芸術が、国際性のある芸術であることを実証したかったのです。

三つ目は、日本人が、外国人の演ずる本格的な「仮名手庵歌舞伎」を見ることによって、一ちよつとおこがましい言い方ですが日本人自身に、自分達がもっている文化遺産のすばらしさに目を開いてもらいたかったのです。

私は、「歌舞伎」を教えるまで十代の若者が、これほどまでにすばらしいとは知りませんでした。汲んでも汲んでも湧いてくる泉のように、無限の可能性とエネルギーを秘めた生徒と、じかにぶつかり合うことで、私はどれほど多くのものを教えられたかわかりません。ことばの違いを乗り越えて、体当りで日本の伝統文化に取り組もうとする、この生徒の熱意こそが、実は「仮名手庵歌舞伎」を支

えて来た一番の原動力なのです。

さて「仮名手庵歌舞伎」ことは七月十七日(木)と十八日(金)に、神戸文化ホールで「十周年記念公演」を行ないます。演し物は、絢爛豪華な、歌舞伎十八番「助六」と、江戸世話物「法界坊」です。なつかしい卒業生も交えてヴェテランぞろいの豪華な顔ぶれです。

どうぞ今からご予定の中にお加え下さいませよう「神戸っ子」を通じてお願い申し上げます。また「仮名手庵歌舞伎」をここまで育てて下さいました多くの方々から御礼申し上げます。

タルホと

わたし

市野木江充子

ハニットデザイナーV



「トンコロピ…… ピー…… 笛の音がすると 月の光が またひとしきり 降りこぼれてきます」

昨年の創作発表会「一千一秒物語」―稲垣足穂―に対して、この

度、神戸っ子ブルーメール賞をいただくことになった。

私は、一つの仕事を終えると、翌日からもうけろっとしていて、その雰囲気が続くということとはあまりなく、すぐ次の仕事に入るのだからだが、その後、新聞などで読まれたらしく、見知らぬタルホ・フアンの方々から、手紙や電話などをいただいた。驚いた。

いろいろな資料を送ってください方もある。私も記事の切り抜きや作品の写真などを送ったりした。また、何かのパーティーなどで紹介されたとき「ああ、あの一千一秒の……」と言われたりもする。そして今度の受賞である。終った仕事でこんなに続いているというのは、私にとって始めてのことであった。

こんなことで、私もまた熱烈なタルホ・フアンだと思われているらしいのだが、ちよつとニュアンスが違ふ。私はそれ程、多くを読んでいないし、稲垣足穂に関して深くを知らない。彼の作品の中では、他に「星を売る店」「チョコレット」「黄漢奇聞」などが好きだ。

さて、この「一千一秒物語」……読めば読む程、私の五感をニヒリスティックに刺戟する。硬質的で宇宙っぽい感性の世界、これは今私が飢えている部分を十分に満たしてくれるものであった。

テーマをこれに決めてから、作品づくりが始った。おかしなことに、いつもなら、一番時間がかかるデザイン出しの段階で、この仕事があつという間にできてしまった。

これに対する素材も満足できるものが十分にそろった。まずは順調なすべり出しといえよう。私はこのテーマから、クールで繊細そしてちよつと醒めたユーモア感覚のある作品を創ろうとした。

ニットは一本の糸を丹念に編み上げていくものだが、ニットそのものの持つ、しなやかさ、心で着られる自由さ、といったものが、まさにこのテーマにぴったりであった。

ショウの場合、私は、背景となる会場、印刷物・音・光、その他ショウに関するすべてのことを、コストユームと同じウェイトで、考える。

予算という大きな問題を前に、理想から、次第に遠ざかっていく様は、私にとっては作品づくりの苦しみ以上のものである。

次も「タルホ」ですか?とよく聞かれる。

その時期に私の感性がどうなっているか私には分らない。

が、今の私の仕事の質から考えて「多分……」と無機的に答えることにしている。

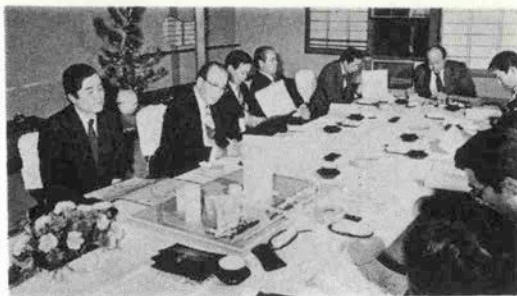
□ある集いその足あと
中内功社長を囲む会

中内学校

有吉雄太郎

△紀新聞発刊社長▽

昨夏より牛尾吉朗ウシオ工業社長が中心となって、中内功ダイエー社長を校長先生（ご本人は「私は教頭です」とおっしゃるが）に口説きおとし、神戸経済界の昭和生まれの若武者たちが、中内社長を、経済界の、経営者としての、あるいは人生の大先輩として募うように集まった25名の小集団として出発したのが中内学校である。



ポートアイランドの模型を前に“勉強会”

同じような性質の会で、関西には井植学校や日向教室など、経済界の大御所が主宰された若手経済人の研鑽の場であって、中内社長や牛尾氏は井植学校の卒業生でもある。

このような先輩たちの足跡をふまえて、昨年10月に発足した当学校は、毎月一回を原則に例会をもち、中内校長とゲスト講師を中心に討論、情報の交換を行ない、研鑽の場とともに、昭和生まれのロマンを語る場として続けられている。

中内校長のスケールの大きさ、ロマンの拡がりの果しなさは文句なく楽しい。今、神戸のまちで、経済はもちろん、社会、文化、教育など、いろいろな分野において求められるものは、このような意味でのスケールの大きさだろう。時期を同じくして中内校長は神戸商工会議所の副会頭に就任され、また校長のご出身地でもある神戸に流通大学創設の構想を発表されたことは、我々「生徒」たちにとっても大きな喜びである。今日までの神戸経済界の動きは、空港の誘致問題にしても独走の感がないでもない。ということとは、経済界が生活者とともに歩む姿勢が欠けていたということである。中内校長の場合、日頃の企業活動においても生活者とともに考え、歩んで

いくセンスに慣れておられる。このことは、神戸商工会議所のこれからの運動に大きな好しい結果が現われると思う。また、流通大学構想は、今や学園都市としての構想に発展しており、神戸が単なるフアッション都市としてではなく情報都市、流通都市、頭脳都市、変化都市の総合的なマトリックスとしてとらえられる芸術のまちづくりに寄与することとして期待できる。

この中内学校を通じて、中内校長のスケールの大きさの中で生徒たちが、何か神戸のまちづくりの上で不如意な人間としての我々の世代の分担を果せることが将来できるものと信じている。

会員／有吉雄太郎△紀新聞発刊社長▽、井植貞雄△塩屋土地開発専務▽、福岡必三△カネボウベルエイシー㈱社長▽、上島達司△UCC上島珈琲本社副社長▽、牛尾吉朗△ウシオ工業㈱社長▽、小笠原義△兵庫県副知事▽、川西章二△川西倉庫㈱社長▽、河野忠博△カワノ㈱社長▽、木津雅敏△神戸モールド㈱社長▽、岸本晃一△岸本酒造専務▽、五代友和△摩耶商事㈱社長▽、小林博司△小林桂㈱社長▽、下村光治△㈱神戸風月堂社長▽、滝川博司△兵庫トヨタ自動車㈱社長▽、田崎俊作△田崎真珠㈱社長▽、玉井新吉△神戸船渠工業㈱▽、寺本湛△㈱淡路屋社長▽、土居文治△土居自動車工業㈱社長▽、鳥越哲△㈱神戸眼鏡院専務▽、南部圭三△光印刷㈱社長▽、野沢太郎△㈱ザワ社社長▽、野村昌平△㈱ダイエー常務社長室長▽、畑嶋広敏△㈱ワールド社長▽、宮田善夫△㈱宮田組専務▽、三輪吉郎△三輪運輸工業㈱社長▽、安好匠△神戸市教育局長▽、若林邦昌△忠勇㈱社長▽

こうべに
ふれあいの
ディテールを
心の通う店創り

nick
KOBE NAGOYA TOKYO

神戸日建

商業施設全般・調査企画・店舗装備・設計施工

株式会社 **神戸日建**

本社(設計室) 神戸市葺合区御幸通3丁目2-20
PHONE (078) 252-1321(代)

神戸事業部 PHONE (078) 251-3525(代)

名古屋事業部 PHONE (052) 561-3618

東京事業部 PHONE (03) 278-1369

●ローン・リースの開店資金相談

**オリエンタル
レディスクラブ**

会 員 募 集 中



月例グルメの会：シェフによるメニュー説明

年会費：お一人 5,000円

割 引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたします。
その他のいろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎(078)331-8111

□連載エッセイ／私のひろいもの／14▽

ナンコハン

竹中 郁 △詩人・絵も▽



楠公前の話のつづきを書く。坪井の時計屋のとなり塩問屋の松原という家があって、これが小磯良平の実母の家であった。明治時代に娘を神戸女学院へ通わせるくらいだから裕福だったにちがいないが、塩が政府の専売になってしまつて、昔ほどの繁盛ぶりではないらしく、広い店の土間はガランとしていた印象がのこっている。既得の営業権をにぎったまま、ただ、商売の方はアグラを掻いているといった状況だったのだろう。

小磯君のはなしによると、法事だかお祝い事かに子供ながらに招かれて、一人前のお膳の前に座らされ、大いに照れてはにかんでしまったそうだ。その従兄に当たる治郎さんという人のあしらいで、二人だけが縁側に座を移して、やっと胸がおさまって御馳走がのどを通ったという。

この少年時代の心理状態は他の場合にもしばしば現われたものらしい。一つ歳下に恭平さんという弟さんがあって今でも健在だが、この良平、恭平という兄弟を誘いにくる同年輩の近所の友だちがどういうわけか良平を敬遠してか疎んじてか、恭平さんにだけ声をかけてくる。それがくやし

つてからの小磯良平は何度も迷った。
この少年心理の経験談を探ることで、小磯芸術のある部分を解明できる。

坪井の時計屋は先代松本幸四郎（団十郎、幸四郎、松緑の三兄弟の父）が大の最良であった。おやじがそんな芝居好きからか、息子が脚本を書いて、どこかの懸賞募集に応じて入賞、それを菊池寛がほめた。大正十年くらいのころだ。そのあと、この坪井正直という人は宝塚の作者になったようだったが、大きな時計屋の若旦那が芝居者らしく意気がって歩いているのを神戸市内で見かけた。履いている下駄は、なんと東京日本橋大和屋の白なめし鼻緒だった。なるほど、高麗屋幸四郎からのみやげか伝授かだなと、わたくしは合点した。

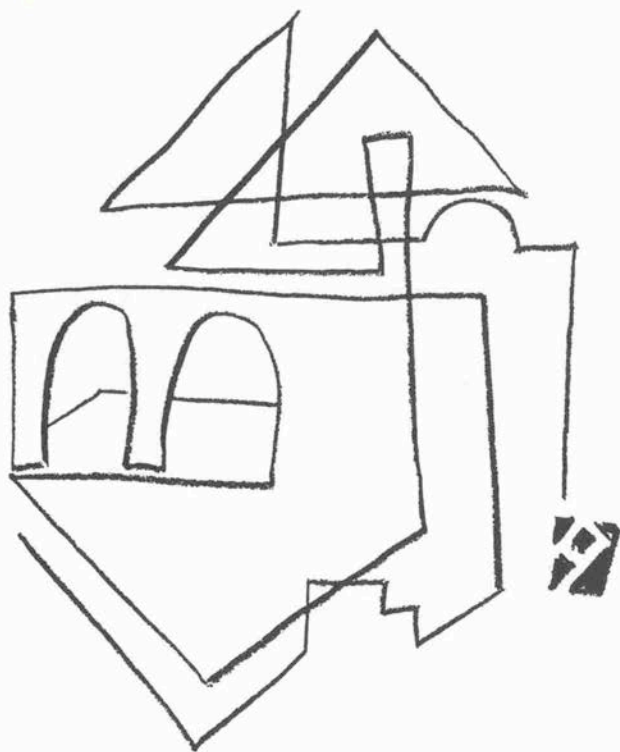
わたくしの父の友人に江戸っ子のパリパリの通人があって、うちでもその下駄を一級外出用に使っていたから、中学生のわたくしの目にも見破れたのだ。その坪井の若旦那も、生きていれば八十は越していられよう。

坪井の二階建洋館は戦争後も金沢医院として使

われていた。金沢庸太郎という医師は神戸二中で小磯やわたくしと同級だった。

楠公前という名称がいつできたかといわれるとこれはわたくしの手には負えない。市内電車が東西に走りだしたところか、その後、あそこが交差点になって神戸駅前から栄町線へ合流して走るようになったところか。とにかくはつきりとはわからない。

お茶の菅園にでもきくか、いまは三宮へ移った文具屋の長沢にでもきくか。子供のわれわれも、極く幼いときに「楠公さん」とか「ナンコハン」とは耳にしたが、楠公前とききなれたのは小学校



も上級になってからであった。市電の停留所の名でも「福原口」などと言いだしたのはずっと後で、はじめはしかつめらしく「多聞通何丁目」だったから、楠公前もその流儀だったのところがうかしら。

神社の西側、いまの彫刻の道のどこかに小磯君がよく入った食べもの屋があったそうだ。中学時代にまいにち須磨天神浜の水練場へ通わねばならなかったが、平野梅元町の山から神戸駅まで徒歩で来て、そこで汽車にのる。それで須磨駅までゆく。それが至便だったという。帰りはつかれはて

て、楠公前から大倉山を越えてゆくのが辛かった。そんなときその店へ腰を下ろしてのんびりたべたりしたのだそう。店の名もそのたべものも霞の中のようにぼやけていて、聞き手のわたくしにはわからない。なるほど、水練でくたびれた脚で、夏の夕方のあつさの中を平野の祥福寺の東まで登り道を帰ってゆくの、さぞかししんどいことだったろう。海水を洗いい流しめずのことだらうから、思っただけでも暑苦しい。(このさしえは、旧神戸駅)